高校 2, 3 年生における学習方略と自己効力感の獲得との関連
―学習習慣の確立とペアワークの活用による英語理解度の向上

The relationship between learning strategies and acquiring self-efficacy among 2nd year and 3rd year high school students
― the development of English understanding through the establishment of studying habits and the use of pair-work

若　海　由　美*　　尾　﨑　啓　子**
Yumi WAKAUMI　　Keiko OZAKI

【キーワード】高校 2, 3 年生、自己効力感、学習習慣、英語理解度

1　はじめに

高校生と生活を共にする教師の視点を活かして、2013 年から 2016 年にかけて若海･尾﨑が行った調査結果から、高校生における学習方略と自己効力感の獲得との関連について、以下の２点が分かった。(1) 高校２年生は、自己効力感の獲得及びその後の学習成果において、重要な学年である（若海・尾﨑、2013, 2014, 2016)。(2) 英語の予習→授業→復習サイクルによる学習習慣の確立とペアワークという学習方略による３年間の英語学習経験の積み重ねが、生徒たちに自信を持たせ、自己効力感の獲得に有効である（若海・尾﨑、2015)。

バンデューラ（A. Bandura）は、自己効力感を「外界の事柄に対し、自分が何らかの働きかけをすることが可能であるという感覚」であると定義している。自己効力感の有効性について、野口（1999）は「バンデューラが提唱している自己効力感は、自信や意欲の効能であり、達成や対処への可能性である。力強い自己効力感をもつ人は、自分の能力をうまく働かせて困難に立ち向かい、さらにいっそう努力していくことになる」と述べている。

一方、自己効力感と学習との関連において、中西 (2004) は、「自己効力感は、学習スキルを予測することも示唆されていることから (Schunk、1982)、自己効力感を高めることは学習場面においても有益であると考えられる」と述べている。このように、自己効力感の高まりは学習へもプラスの効果を与えていることが分かる。

また、学習方略、特に予習と授業との関連について、篠ヶ谷 (2014) は、「授業中に教師が単語の解説や生徒の指名を多く行うほど、学習者は辞書を調べておく、他の人に聞くといった方法で予習を行うこと」を指摘している。授業で生徒と教員のインターラクションがあるのは当然だが、この論文から、授業中の教員の単語の解説や指名の多さが予習にまで影響を与えていることが分かる。予習は、従来、授業理解を促進させるために生徒が自らやるべき学習と考えられているが、生徒が予習をやる気になるかどうか、また、実際に予習をするかどうかは、授業中の教員と生徒の関わり方が大きく関与している。

2011 年度から 2013 年度にかけて、３年間持ち上がった生徒たちとの３年間の授業実践（若海・尾﨑, 2013, 2014, 2015)、高校 2 年生における学習方略と自己効力感の獲得との関連に関する生徒たちの１年間の変化の検討 (2016) における知見と経験、反省点を踏まえ、2015 年度の第１筆者の英語の授業では、高校 2, 3 年生における学習方略と自己効力感の獲得との関連について、生徒たちの変化を検討した。その際、年度当初の 4 月、12 月下旬の年 2 回、生徒たちに質問紙調査を実施し、生徒たちの段階的な変化を調査した。また、この２回の質問紙調査とは別に、１回目の質問紙調査の分析及び１学期の授業を行った第１筆者の感触から、一部の生徒（第１筆者の授業を今年度初めて受講するクラス）に対して、英語に対する意識調査を１学期末に実施した。

2015 年度、第１筆者の３年生の授業でも、まず第１に基本的な学習習慣の確立に努めた。特に、英語が苦手な生徒には、予習→授業→復習→予習→授業→復習→ ････ のサイクルを作り、早く学習習慣を確立するよう、徹底して指導した。勉強が分からなければ生徒たちは授業が楽しいと感じられず、その結果自己効力感も低下し、大学入試への対応も遅れると考えたからである。一方、２年生までに学習習慣がある程度確立されている生徒には、その学習習慣を基礎とした発展的な学習スタイルを形成できるような指導を行った。第２に、昨年度同様、「自己効力感の向上」をより具体的に分析するために、質問紙に「音読」「文法力」「読解力」

*　埼玉県立熊谷西高等学校／埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター研究員
**　埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター

「コミュニケーション力」の具体的な質問項目を加えた。これらの分析により、高校2,3年生における学習方略と自己効力感の獲得との関連について、第1筆者の英語の授業を2年間受講した生徒と1年間受講した生徒を比較しつつ、学習習慣の確立とペアワークの活用による英語理解度の観点から検討したい。

2　対象

2015年4月、12月：埼玉県内の中規模進学校である県立高校3年生 120名。普通科2クラス82名(男子40名、女子 42名)、理数科1クラス38名（男子25名、女子13名)。2015年7月：同高校3年生 普通科1クラス42名（男子27名、女子15名)。

3　方法

English Communication IIIの授業を受講する3年生(A,B,Cクラス）を4つのグループに分け、2015年4月、12月の年2回、英語の授業に関する記名式の質問紙調査を実施した。さらに、普通科1クラスで7月に追加の質問紙調査を実施した。グループ分けは以下の通りである。

A.　2年生～3年生の2年間、第1筆者の授業の受講生徒
Ba.　2年生～3年生の2年間、第1筆者の授業の受講生徒
Bc.　3年生での1年間、第1筆者の授業の受講生徒
C.　3年生での1年間、第1筆者の授業の受講生徒

Bクラスは第1筆者の授業を2年間受講した生徒と1年間の受講生とが混在しており、前者をBa 、後者をBcとした。対象人数はAが38名、Baが15名、Bcが25名、Cが42名である。

4　2年間の英語の授業について

対象の科目は、2年生ではEnglish Communication II(以下EC II)、3年生ではEnglish Communication III(以下EC III)で、2科目とも55分授業が週4回である。

（1）EC II の授業構成

使用教科書は、CROWN English Communication II（三省堂)。毎日の授業（予習復習含む）の流れは以下の通りである。

① 初見で辞書を使わずに新しいLesson を通しで読み、本文の内容についてのTrue or False（T,F）クイズを実施。【予習宿題】
② 予習プリント（教員がオリジナルで作成）を使い、次の授業の予習をしてくる（単語・熟語調べ、本文の内容理解、既習文法の確認、新しい文法事項の確認等が網羅されている)。【予習宿題】
③ 授業

(a) 内容理解：単語・熟語の発音と意味の確認、本文のリスニング。その後、パラグラフ単位での本文の内容確認、新しい文法事項、難しい構文の入っている文についての説明。
(b) 音読：音読は、内容理解後に行っている。教員の後について数回Chorus Reading をした後、生徒全員を起立させる。隣同士でペアになり、one sentence ずつ交代で読む。2回目は読む順番を反対にして読む。2回読み終わったペアから座る。その後、ランダムで3～4組を指名し、全員の前で読んでもらう。
(c) 復習プリント【復習宿題】：Lessonの各Part毎に教員がオリジナルで作成。内容は､本文に関する英問英答、授業で出てきた単語や熟語の派生語や反対語の確認、類語や間違いやすい語法の説明、本文に出てきたものに関連した、入試に出やすいポイントの整理、熟語や構文を使ってオリジナルの英作文を書かせる、本文に出てきた内容（発音､アクセント､語彙､構文､文法などが主）に関する入試問題を発展問題として解かせる、新出の文法事項、分かりにくい構文などの構造についての再確認などを取り入れている。英問英答については、隣同士のペアを活用。この時､分からないところがあれば、生徒はペアの相手と確認し合ったり、2人とも分からなければ他のペアに聞いて、一緒に考えることも可能。練習後、ランダムで指名､問題毎に違うペアに発表させる。

実際の授業では､③(b)までで1回の授業､③(c)が0.5～1回のペースで行い、Lessonの各Part は、1.5～2回の授業で完結させている。また、毎回授業の最初に、5～7分程度で速読演習問題を実施している。

（2）EC IIIの授業構成

使用教科書は､CROWN English Communication III（三省堂)。9月まではこの教科書を使い、10月以降は、長文の演習問題集を使用した。毎日の授業(予習復習含む)の流れは以下の通りである。

4～9月

① 予習プリント（Lessonの各Part毎に教員がオリジナルで作成）をやってくる。プリントの内容は、入試を意識した実践的な質問形式になっており、指示語の確認、構文の理解、大意把握、重要な単語や発音に関する問題など。【予習宿題】
② 授業

(a) 内容理解：単語・熟語の発音と意味の確認、本文のリスニング。その後、5分程度時間を取り、生徒はペアになり、答えの確認、分からなかった所を教えあうなどの作業をする。その後、予習プリントの答え合わせ。
(b) 音読：音読は、内容理解後に行っている。教員の後について数回Chorus Readingをした後、生徒全員を起立させる。隣同士でペアになり、one sentenceずつ交代で読む。2回目は読む順番を反対にして読む。2回読み終わったペアから座る。その後、ランダムで3～4組を指名し、全員の前で読んでもらう。
(c) 復習【復習宿題】：授業で学習した内容の確認。復習プリントは用意せず。

10月～1月

① 実践的な演習問題中心の授業展開のため、基本的に予習はなし。
② 授業：毎回、過去の入試長文問題を配布。20分程度で問題を解く。その後、解説解答を配り各自で答え合

わせをした後、ペアで確認。教員は机間巡視をしながら質問に答える。最後に、生徒の間違いの多かった問題、分かりにくい問題等を中心に解説。1 回の授業で 1 レッスン完結型。

③　復習:予習がない分、復習は徹底させた。授業で扱った入試問題をその日のうちにしっかりと復習させ、自分の弱点を把握させた。弱点はノートに書き出し、1 週間後に再復習。その際まだ忘れていたら、復習を繰り返すように指導した。また、2 年生から引き続き、毎回授業の最初に 10 分程度で速読演習問題を実施している。授業の主なねらいは、それぞれの生徒の自己効力感、「音読」「文法力」「読解力」「コミュニケーション力」の向上に伴う授業理解度、成績の上昇である。

5　質問紙調査の結果

2 年間の英語の授業における生徒の意識と行動の変化を検証するために、2015 年 4 月、7 月（C 組のみ）、12 月に質問紙調査を実施した。質問項目 1,2,5,12,16 は 4 月、質問項目 3,4,6〜8,11〜16 は 12 月、9,10 は 7 月に行った。

1）2 年生までの英語授業理解度における自己認知について

「90%以上、89〜70%、69〜50%、49〜30%、30%未満」の 5 つから 1 つを選択とした。授業の理解度が「90%以上」の生徒は A が 5.3%、Ba が 6.7%、Bc が 8%、C が 0%、「89%〜70%」の生徒は A が 34.2%、Ba が 46.7%、Bc が 16%、C が 11.9% である。

授業の理解度が「30%未満」の生徒は A、Ba が 0%、Bc が 4%、C が 9.5%、「49% 〜 30%」の生徒は A が 7.9%、Ba が 20%、Bc が 32%、C が 52.4% で、C の理解度の低さが目立つ。（表 1 − 1 参照）。2 年間受講組 A ＋ Ba と 1 年間受講組 Bc ＋ C で比較すると、授業の理解度が「70%以上」の生徒は前者が 43.4%、後者が 16.4%、授業の理解度が「49%未満」の生徒は前者が 11.3%、後者が 52.3% である。（表 1 − 2 参照）

Q1　2年生を終えての英語の授業の理解度は自分ではどのぐらいだと思いますか。(4月)

【表1-1】

	A	Ba	Bc	C	合計人数
90%以上	2 (5.3%)	1(6.7%)	2 (8%)	0	4人
89〜70%	13 (34.2%)	7 (46.7%)	4 (16%)	5(11.9%)	28人
69〜50%	20 (52.6%)	4 (26.6%)	10 (40%)	11(26.2%)	47人
49〜30%	3(7.9%)	3(20%)	8(32%)	22(52.4%)	36人
30%未満	0	0	1(4%)	4(9.5%)	5人
合計人数	38人	15人	25人	42人	120人

【表1-2】

	A ＋ Ba	Bc ＋ C	合計人数
90%以上	3(5.7%)	2 (3%)	4人
89〜70%	20 (37.7%)	9 (13.4%)	28人
69〜50%	24 (45.3%)	21 (31.3%)	47人
49〜30%	6(11.3%)	30(44.8%)	36人
30%未満	0	5(7.5%)	5人
合計人数	53人	67人	120人

2）2 年生での英語授業理解度の変化における自己認知について（1 年生の時との比較）

「かなり上がった、上がった、変わらない、下がった、かなり下がった」の 5 つから 1 つを選択とした。授業の理解度が「かなり上がった」生徒は A が 2.6%、Ba が 13.3%、Bc が 8%、C が 2.4%、「上がった」生徒は A が 84.2%、Ba が 80%、Bc が 60%、C が 38.1% である。授業の理解度が「下がった」生徒は A,Ba が 0%、Bc が 8%、C が 11.9%、「かなり下がった」生徒はなしである。（表 2 − 1 参照）2 年間受講組 A ＋ Ba と 1 年間受講組 Bc ＋ C で比較すると、授業の理解度が「かなり上がった / 上がった」生徒は前者が 88.7%、後者が 50.8%、授業の理解度が「かなり下がった / 下がった」生徒は前者が 0%、後者が 10.4% であり、2 年生で第 1 筆者に習った生徒は、習っていない生徒に比べ、理解度が「かなり上がった / 上がった」生徒の割合が 30% 以上多い。（表 2 − 2 参照）

Q2　1年生の時と比べて、2年生を終えての英語の授業の理解度は上がったと思いますか。(4月)

【表2−1】

	A	Ba	Bc	C	合計人数
かなり上がった	1(2.6%)	2(13.3%)	2(8%)	1(2.4%)	6人
上がった	32(84.2%)	12(80%)	15(60%)	16(38.1%)	75人
変わらない	5(13.2%)	1(6.7%)	6(24%)	20(47.6%)	32人
下がった	0	0	2(8%)	5(11.9%)	7人
かなり下がった	0	0	0	0	0人
合計人数	38人	15人	25人	42人	120人

【表2−2】

	A ＋ Ba	Bc ＋ C	合計人数
かなり上がった	3(5.7%)	3(4.5%)	6人
上がった	44(83%)	31(46.3%)	75人
変わらない	6(11.3%)	26(38.8%)	32人
下がった	0	7(10.4%)	7人
かなり下がった	0	0	0人
合計人数	53人	67人	120人

3）1 年生の ECI の授業が現在役立っているか

「とても役立っている、役立っている、普通、あまり役立っていない、全く役立っていない」の 5 つから 1 つを選択とした。A ＋ Ba と Bc ＋ C で比較すると、「とても役立っている / 役立っている」と分析している生徒は、前者が 56.6%、後者が 34.4%、「普通」は、前者が 41.5%、後者が 44.7% である。「あまり役立っていない / 役立っていない」生徒は、前者が 1.9%、後者が 20.9% と、後者は前者の 10 倍以上で、1 年生で習った基礎的な内容を軽視している傾向が見られる。（表 3 参照）

Q3　1年生の時のECの授業は現在役立っていると思いますか。(12月)

【表3】

	A ＋B a	Bc ＋ C	全体
とても役立っている	1(1.9%)	5(7.5%)	6人(5%)
役立っている	22(54.7%)	18(26.9%)	47人(39.2%)
普通	20(41.5%)	30(44.7%)	52人(43.3%)
あまり役立っていない	1(1.9%)	12(17.9%)	13人(10.8%)
全く役立っていない	0	2(3%)	2人(1.7%)
合計人数	53人	67人	120人

4）2 年生の ECII の授業が現在役立っているか

「とても役立っている、役立っている、普通、あまり役立っていない、全く役立っていない」の 5 つから 1 つを選択とした。A ＋ Ba と Bc ＋ C で比較すると、「とても役立っている / 役立っている」と分析している生徒は、前者が 79.2%、後者が 35.9% と前者が後者の 2 倍以上であり、2 年生で第 1 筆者に習った生徒たちは「とても役に立っている / 役に立っている」と認知している生徒が多い。「普通」は、前者が 20.8%、後者が 49.2%、「あまり役立っていない / 役立っていない」は、前者が 0%、後者が 14.9% で、どの層とも両者の差が大きい。（表 4 参照）

Q4　2年生の時のECの授業は現在役立っていると思いますか。
【表4】　（12月）

	A ＋B a	Bc ＋ C	全体
とても役立っている	8(15.1%)	5(7.5%)	13人(10.8%)
役立っている	34(64.1%)	19(28.4%)	53人(44.2%)
普通	11(20.8%)	33(49.2%)	44人(36.7%)
あまり役立っていない	0	9(13.4%)	9人(7.5%)
全く役立っていない	0	1(1.5%)	1人(0.8%)
合計人数	53人	67人	120人

5)　予習→授業→復習・・・・・サイクルの確立について

「予習・復習を中心に行った、予習はしたが復習はあまりしなかった、予習はあまりしなかったが復習はした、予習も復習もあまりしなかった、テスト前にしか勉強しなかった」の５つから１つを選択とした。２年生の英語の勉強について「予習・復習を中心に行った」生徒はAが23.7%、Baが2.8%、Bcが20%、Cが2.8%、「予習はしたが復習はあまりしなかった」生徒はAが63.2%、Baが73.3%、Bcが48%、Cが38.1%である。「予習も復習もあまりしなかった」生徒はAが2.6%、Baが6.7%、Bcが16%、Cが21.4%、「テスト前にしか勉強しなかった」生徒は、A、Baが0%、Bcが4%、Cが31%である。「予習・復習を中心に行った生徒」は、A,Ba,Bcでのバラつきがみられるが、「予習はしたが復習はあまりしなかった生徒」は、Aで63.2%、Baで73.3%と高い。A,Ba,Bcと比べ、Cでは３分の１の生徒が予習、復習の習慣がほとんど身についておらず、テスト前にしか勉強していなかったことが分かる。（表５－１参照）２年間受講組A＋Baと１年間受講組Bc＋Cで比較すると、「予習・復習を中心に行った」生徒は、前者が22.7%、後者が10.4%、「予習はしたが復習はあまりしなかった」生徒は前者が66%、後者が41.8%、「予習も復習もあまりしなかった」生徒は前者が3.8%、後者が19.4%、「テスト前にしか勉強しなかった」生徒は、前者が0%、後者が20.9%である。（表５－２参照）

Q5　2年生の時の英語の勉強はどのように行っていましたか。(4月)
5:予習・復習を中心に行った
4:予習はしたが復習はあまりしなかった
3:予習はあまりしなかったが復習はした
2:予習も復習もあまりしなかった
1:テスト前にしか勉強しなかった

【表5-1】

	A	Ba	Bc	C	合計人数
5	9(23.7%)	3(2.8%)	5(20%)	2(2.8%)	19人
4	24(63.2%)	11(73.3%)	12(48%)	16(38.1%)	53人
3	4(10.5%)	0	3(12%)	2(2.8%)	9人
2	1(2.6%)	1(6.7%)	4(16%)	9(21.4%)	15人
1	0	0	1(4%)	13(31%)	14人
合計人数	38人	15人	25人	42人	120人

【表5-2】

	A ＋ Ba	Bc ＋ C	合計人数
5	12(22.7%)	7(10.4%)	19人
4	35(66%)	28(41.8%)	63人
3	4(7.5%)	5(7.5%)	9人
2	2(3.8%)	13(19.4%)	15人
1	0	14(20.9%)	14人
合計人数	53人	67人	120人

6)　速読演習について

「とても役立っている、役立っている、普通、あまり役立っていない、全く役立っていない」の５つから１つを選択とした。３年生で授業の最初に毎回行った速読演習について、２年間受講組A＋Baと１年間受講組Bc＋Cで比較すると、「とても役に立っている／役に立っている」と分析している生徒は前者が94.4%、後者が85.1%、「普通」の生徒は前者が5.6%、後者が13.4%、「あまり役に立っていない／役に立っていない」生徒は前者が0%、後者が1.5%で、両者に大きな差はなく、全体として速読はどの層にも好評である。（表６参照）

Q6　3年生の速読演習は現在役立っていると思いますか。
【表6】　（12月）

	A ＋B a	Bc ＋ C	全体
とても役立っている	16(30.2%)	17(25.4%)	33人(27.5%)
役立っている	34(64.2%)	40(59.7%)	74人(61.7%)
普通	3(5.6%)	9(13.4%)	12人(10%)
あまり役立っていない	0	1(1.5%)	1人(0.8%)
全く役立っていない	0	0	0人
合計人数	53人	67人	120人

7)　３年生１学期のECIIIの授業が現在役立っているか

「とても役立っている、役立っている、普通、あまり役立っていない、全く役立っていない」の５つから１つを選択とした。A＋BaとBc＋Cで比較すると、「とても役立っている／役立っている」と分析している生徒は、前者が75.5%、後者が65.6%、「あまり役立っていない／役立っていない」生徒は、前者が0%、後者が6%であり、「とても役立っている／役立っている」と分析している生徒がA＋Baの方が10%程多い。また、後者が２年生の時に比べ「とても役立っている／役立っている」と答えた割合が35.9%→65.6%とかなり上昇している。（表４、表７参照）

Q7　3年生1学期のECの授業は現在役立っていると思いますか。
【表7】　（12月）

	A ＋B a	Bc ＋ C	全体
とても役立っている	11(20.8%)	23(34.3%)	34人(28.3%)
役立っている	29(54.7%)	21(31.3%)	50人(41.7%)
普通	13(24.5%)	19(28.4%)	32人(26.7%)
あまり役立っていない	0	4(6%)	4人(3.3%)
全く役立っていない	0	0	0
合計人数	53人	67人	120人

8)　３年生２学期のECIIIの授業が現在役立っているか

「とても役立っている、役立っている、普通、あまり役立っていない、全く役立っていない」の５つから１つを選択とした。A＋BaとBc＋Cで比較すると、「とても役立っている／役立っている」と分析している生徒は、前者が98.1%、後者が95.5%、「あまり役立っていない／役立っていない」は、前者が0%、後者が1.5%で、両者とも実践的な授業に満足している。（表８参照）

Q8　3年生2学期のECの授業は現在役立っていると思いますか。
【表8】　（12月）

	A ＋B a	Bc ＋ C	全体
とても役立っている	25(47.2%)	43(64.2%)	68人(56.7%)
役立っている	27(50.9%)	21(31.3%)	48人(40%)
普通	1(1.9%)	2(3%)	3人(2.5%)
あまり役立っていない	0	1(1.5%)	1人(0.8%)
全く役立っていない	0	0	0
合計人数	53人	67人	120人

9) ３年生進級時の英語に対する自己認知について（C組のみ７月に実施）

クラス全員が今年度初めて第１筆者の授業を受講しているＣ組（当日１名欠席のため、41名）を対象に、１学期末に実施した。理由は、１回目の質問紙調査の1) 2) の質問項目に対して、C組の生徒の理解度がA組B組と比較して際立って低かったこと。また筆者が１学期間授業をしていて、残念ながら３年生になっても基本的な勉強内容が身についていない生徒が目立ち、憂慮したこと。そして、今後この生徒たちを指導していくうえで、彼らの潜在能力を伸ばし、進路実現を叶えるための方法を考える必要性を痛感したからである。

質問は、「得意、どちらかといえば得意、普通、どちらかといえば苦手、苦手」の５つから１つを選択とした。３年生に進級した時点で、「英語が得意」「どちらかといえば得意」と自己分析している生徒はそれぞれ0%、「普通」の生徒が26.8%、「どちらかをいえば苦手」の生徒が34.2%、「苦手」の生徒が39%で、「どちらかといえば苦手／苦手」の生徒が合計73.2%となり、クラスの70%以上が英語に対する苦手意識をもっていることが分かった。逆に「英語が得意／どちらかといえば得意」の生徒が0%と、クラス全体として、英語に重度のコンプレックスを感じていることが明確になった。（表９参照）

Q9　3年生になった時、英語は得意な教科でしたか。(7月)

【表9】

得意	どちらかといえば得意	普通	どちらかといえば苦手	苦手	合計人数
0	0	11(26.8%)	14(34.2%)	16(39%)	41人

10) ３年１学期終了時での英語に対する自己認知について（C組のみ７月に実施）

9) で、「どちらかといえば苦手」と答えた生徒の中で、苦手意識が「解消された」生徒は7.1%、「少し解消された」生徒は78.6%、「変化なし」が14.3%、「解消されない」「もっと苦手になった」生徒は0%だった。また、9) で、「苦手」と答えた生徒の中で、苦手意識が「解消された」生徒は0%、「少し解消された」生徒は68.8%、「変化なし」の生徒は31.2%、「解消されない」と「もっと苦手になった」生徒は0%だった。「苦手／どちらかといえば苦手」で苦手意識が「解消された／少し解消された」生徒の割合は76.7%、８割近い生徒に苦手意識の解消が見られた。（表１０参照）

Q10　Q9で「苦手」「どちらかといえば苦手」と答えた人に聞きます。1学期のECの授業を受けて、英語に対する苦手意識は解消されましたか。

【表10】　(7月)

	解消された	少し解消された	変化なし	解消されない	もっと苦手になった	合計人数
どちらかといえば苦手(14人)	1(7.1%)	11(78.6%)	2(14.3%)	0	0	14人
苦手(16人)	0	11(68.8%)	5(31.2%)	0	0	16人
合計人数	1(3.3%)	22(73.4%)	7(23.3%)	0	0	30人

11) ３年生での英語授業理解度の変化における自己認知について（３年生４月との比較）

「かなり上がった、上がった、変わらない、下がった、かなり下がった」の５つから１つを選択とした。

授業の理解度が「かなり上がった」生徒はAが57.9%、Baが66.7%、Bcが52%、Cが42.9%、「上がった」生徒はAが42.1%、Baが33.3%、Bcが40%、Cが47.6%である。

授業の理解度が「下がった」生徒、「かなり下がった」生徒はいなかった。（表１１－１参照）

２年間受講組A＋Baと１年間受講組Bc＋Cで比較すると、授業の理解度が「かなり上がった／上がった」生徒は前者が100%、後者が91%、授業の理解度が「かなり下がった／下がった」生徒は前者、後者とも0%であり、３年の12月では、２年間受講組と１年間受講組の両者とも高い理解度となった。（表１１－２参照）

Q11　2年生の時と比べて、3年生12月での英語の授業の理解度は上がったと思いますか。(12月)

【表11－1】

	A	Ba	Bc	C	合計人数
かなり上がった	22(57.9%)	10(66.7%)	13(52%)	18(42.9%)	63人
上がった	16(42.1%)	5(33.3%)	10(40%)	20(47.6%)	51人
変わらない	0	0	2(8%)	4(9.5%)	6人
下がった	0	0	0	0	0人
かなり下がった	0	0	0	0	0人
合計人数	38人	15人	25人	42人	120人

【表11－2】

	A＋Ba	Bc＋C	合計人数
かなり上がった	32(60.4%)	31(46.3%)	63人
上がった	21(39.6%)	30(44.7%)	51人
変わらない	0	6(9%)	6人
下がった	0	0	0人
かなり下がった	0	0	0人
合計人数	53人	67人	120人

12) ２年生までの英語の授業で力がついた項目（４月）/３年生で力をつけたい項目（４月）/３年生の授業で力がついた項目について（12月）

２年生終了時点での授業理解度（表１－１参照）に基づいて作成した。ここでは紙面の都合上、２年間授業を担当したA組と１年間授業を担当したC組の比較を掲載した。質問は、「とても力をつけたい（とてもついた）、力をつけたい（ついた）、普通、あまり力をつけなくてもよい（あまりつかなかった）、力をつけなくてもよい(つかなかった)」の５つから１つを選択とした。（表１２－１，２，３及び表１３－１，２，３参照）

A組は２年生までの英語の授業における理解度「90%以上」「89～70%」「69～50%」「49～30%」すべての層で「音読」「文法力」「読解力」「コミュニケーション力」のほぼ全部で「とても力がついた、力がついた、普通」と答えており、３年生の英語の授業で力をつけたい項目も「90%以上」と「49～30%」では全員がすべての項目で「とても力をつけたい、力をつけたい」と回答、それ以外の２つの層でも「普通」がややいるがほとんどの生徒が「とても力をつけたい、力をつけたい」と回答している。12月の時点でも、ほぼ全員が「とても力がついた、力がついた、普通」と回答、特に「文法力」と「読解力」については、理解度「90%以上」「89～70%」「69～50%」の層で、それぞれ半分以上の生徒が「とても力がついた、力がついた」と回答している。

C組は、２年生までの英語の授業理解度「89～70%」「69～50%」「49～30%」の全ての層で、全ての項目に対して「力がつかなかった、全く力がつかなかった」と答えている

A組　38人

【表12－1】Q12　2年生までの英語の授業で力がついたと思うことは何ですか。(4月)

5:とても力がついた　4:力がついた　3:変化なし
2:力がつかなかった　1:全く力がつかなかった

	音読	文法力	読解力	コミュニケーション力
90%以上（2人）	5 1	5 1	5 2	5 0
	4 1	4 1	4 0	4 1
	3 0	3 0	3 0	3 1
	2 0	2 0	2 0	2 0
	1 0	1 0	1 0	1 0
89～70%（13人）	5 4	5 1	5 0	5 1
	4 7	4 5	4 6	4 5
	3 2	3 7	3 7	3 6
	2 0	2 0	2 0	2 1
	1 0	1 0	1 0	1 0
69～50%（20人）	5 2	5 0	5 1	5 2
	4 13	4 14	4 10	4 6
	3 5	3 6	3 9	3 9
	2 0	2 0	2 0	2 3
	1 0	1 0	1 0	1 0
49～30%（3人）	5 0	5 0	5 0	5 0
	4 3	4 3	4 1	4 1
	3 0	3 0	3 1	3 2
	2 0	2 0	2 1	2 0
	1 0	1 0	1 0	1 0
30%未満（0人）	5 0	5 0	5 0	5 0
	4 0	4 0	4 0	4 0
	3 0	3 0	3 0	3 0
	2 0	2 0	2 0	2 0
	1 0	1 0	1 0	1 0

【表12－2】Q12　3年生の英語の授業で力をつけたいと思うことは何ですか。(4月)

	音読	文法力	読解力	コミュニケーション力
90%以上（2人）	5 1	5 2	5 2	5 1
	4 1	4 0	4 0	4 1
	3 0	3 0	3 0	3 0
	2 0	2 0	2 0	2 0
	1 0	1 0	1 0	1 0
89～70%（13人）	5 1	5 10	5 11	5 1
	4 8	4 3	4 2	4 7
	3 4	3 0	3 0	3 5
	2 0	2 0	2 0	2 0
	1 0	1 0	1 0	1 0
69～50%（20人）	5 6	5 17	5 15	5 6
	4 11	4 3	4 4	4 12
	3 3	3 0	3 1	3 2
	2 0	2 0	2 0	2 0
	1 0	1 0	1 0	1 0
49～30%（3人）	5 1	5 2	5 3	5 1
	4 2	4 1	4 0	4 2
	3 0	3 0	3 0	3 0
	2 0	2 0	2 0	2 0
	1 0	1 0	1 0	1 0
30%未満（0人）	5 0	5 0	5 0	5 0
	4 0	4 0	4 0	4 0
	3 0	3 0	3 0	3 0
	2 0	2 0	2 0	2 0
	1 0	1 0	1 0	1 0

【表12－3】Q12　3年生の英語の授業で力がついたと思うことは何ですか。(10月)

	音読	文法力	読解力	コミュニケーション力
90%以上（2人）	5 1	5 1	5 1	5 0
	4 1	4 1	4 1	4 1
	3 0	3 0	3 0	3 1
	2 0	2 0	2 0	2 0
	1 0	1 0	1 0	1 0
89～70%（13人）	5 0	5 4	5 5	5 0
	4 6	4 5	4 6	4 3
	3 7	3 4	3 2	3 10
	2 0	2 0	2 0	2 0
	1 0	1 0	1 0	1 0
69～50%（20人）	5 1	5 3	5 4	5 0
	4 5	4 10	4 15	4 3
	3 14	3 7	3 1	3 16
	2 0	2 0	2 0	2 1
	1 0	1 0	1 0	1 0
49～30%（3人）	5 1	5 1	5 1	5 0
	4 2	4 1	4 0	4 0
	3 0	3 1	3 2	3 3
	2 0	2 0	2 0	2 0
	1 0	1 0	1 0	1 0
30%未満（0人）	5 0	5 0	5 0	5 0
	4 0	4 0	4 0	4 0
	3 0	3 0	3 0	3 0
	2 0	2 0	2 0	2 0
	1 0	1 0	1 0	1 0

C組　42人

【表13－1】Q12　2年生までの英語の授業で力がついたと思うことは何ですか。(4月)

5:とても力がついた　4:力がついた　3:変化なし
2:力がつかなかった　1:全く力がつかなかった

	音読	文法力	読解力	コミュニケーション力
90%以上（0人）	5 0	5 0	5 0	5 0
	4 0	4 0	4 0	4 0
	3 0	3 0	3 0	3 0
	2 0	2 0	2 0	2 0
	1 0	1 0	1 0	1 0
89～70%（5人）	5 1	5 1	5 1	5 0
	4 1	4 3	4 2	4 0
	3 2	3 1	3 2	3 3
	2 1	2 0	2 0	2 2
	1 0	1 0	1 0	1 0
69～50%（11人）	5 0	5 0	5 0	5 0
	4 3	4 5	4 3	4 0
	3 7	3 4	3 6	3 4
	2 1	2 2	2 2	2 7
	1 0	1 0	1 0	1 0
49～30%（22人）	5 0	5 0	5 1	5 0
	4 4	4 2	4 1	4 0
	3 14	3 12	3 12	3 9
	2 4	2 8	2 7	2 12
	1 0	1 0	1 1	1 1
30%未満（4人）	5 0	5 0	5 0	5 0
	4 1	4 0	4 1	4 1
	3 1	3 1	3 1	3 1
	2 1	2 2	2 1	2 0
	1 1	1 1	1 1	1 2

【表13－2】Q12　3年生の英語の授業で力をつけたいと思うことは何ですか。(4月)

	音読	文法力	読解力	コミュニケーション力
90%以上（0人）	5 0	5 0	5 0	5 0
	4 0	4 0	4 0	4 0
	3 0	3 0	3 0	3 0
	2 0	2 0	2 0	2 0
	1 0	1 0	1 0	1 0
89～70%（5人）	5 1	5 5	5 4	5 2
	4 2	4 0	4 1	4 2
	3 2	3 0	3 0	3 1
	2 0	2 0	2 0	2 0
	1 0	1 0	1 0	1 0
69～50%（11人）	5 2	5 9	5 8	5 3
	4 5	4 2	4 3	4 4
	3 2	3 0	3 0	3 4
	2 2	2 0	2 0	2 0
	1 0	1 0	1 0	1 0
49～30%（22人）	5 5	5 20	5 21	5 6
	4 9	4 2	4 1	4 9
	3 8	3 0	3 0	3 7
	2 0	2 0	2 0	2 0
	1 0	1 0	1 0	1 0
30%未満（4人）	5 2	5 3	5 3	5 2
	4 2	4 1	4 1	4 2
	3 0	3 0	3 0	3 0
	2 0	2 0	2 0	2 0
	1 0	1 0	1 0	1 0

【表13－3】Q12　3年生の英語の授業で力がついたと思うことは何ですか。(10月)

	音読	文法力	読解力	コミュニケーション力
90%以上（0人）	5 0	5 0	5 0	5 0
	4 0	4 0	4 0	4 0
	3 0	3 0	3 0	3 0
	2 0	2 0	2 0	2 0
	1 0	1 0	1 0	1 0
89～70%（5人）	5 2	5 1	5 3	5 0
	4 1	4 2	4 2	4 0
	3 2	3 1	3 0	3 3
	2 0	2 1	2 0	2 2
	1 0	1 0	1 0	1 0
69～50%（11人）	5 0	5 3	5 5	5 0
	4 3	4 4	4 3	4 1
	3 6	3 4	3 2	3 6
	2 2	2 0	2 1	2 4
	1 0	1 0	1 0	1 0
49～30%（22人）	5 1	5 1	5 7	5 0
	4 4	4 13	4 15	4 1
	3 14	3 5	3 0	3 14
	2 3	2 3	2 0	2 7
	1 0	1 0	1 0	1 0
30%未満（4人）	5 0	5 0	5 1	5 1
	4 0	4 1	4 1	4 0
	3 3	3 2	3 2	3 2
	2 1	2 1	2 0	2 1
	1 0	1 0	1 0	1 0

生徒がいるが、３年生の英語の授業で力をつけたい項目では、「とても力をつけたい、力をつけたい」と回答している生徒が多い。特に、「文法力」「読解力」では、全ての層で、「とても力をつけたい、力をつけたい」と回答している。12 月の時点では、「文法力」「読解力」のうち、「文法力」は「とても力がついた、力がついた」生徒が

59.5%、「あまり力がつかなかった」生徒が11.9%いるが、「読解力」については88.1%が「とても力がついた、力がついた」と回答、「あまり力がつかなかった」生徒は2.4%だった。C組の生徒は英語の苦手意識はあるものの、「力をつけたい」と考えており、実際には「文法力」は約60%、「読解力」は約90%が「力がついた」と自己分析していることが分かる。

13) 受験勉強に向けての英語の勉強の頑張れ度合い（自己効力感）について（１２月に実施）

「80%以上、79～65%、64～50%、49～30%、30%未満」の５つから１つを選択とした。２年間受講組A＋Baと１年間受講組Bc＋Cで比較すると、自己効力感「80%以上」の生徒は前者が47.2%、後者が55.2%、「79～65%」の生徒は前者が39.6%、後者が25.4%、「64～50%」の生徒は前者が9.4%、後者が11.9%、「49～30%」の生徒は、前者が3.8%、後者が6%、「30%未満」の生徒は前者が0%、後者が1.5%である。自己効力感「80%以上」の生徒は、２年間受講組と１年間受講組では約8%、「79～65%」の生徒では約15%の差がある。（表１４参照）

Q13　受験勉強で今が一番つらい時期だと思いますが、「自分は頑張れる、やれる」という気持ちの強さはどのぐらいですか。

【表14】　（12月）

自己効力感	A＋Ba	Bc＋C	全体
80%以上	25(47.2%) [23(45.1%)]	37(55.2%) [28(48.3%)]	62(51.7%) [51(46.8%)]
79～65%	21(39.6%)	17(25.4%)	38(31.7%)
64～50%	5 (9.4%)	8(11.9%)	13(10.8%)
49～30%	2(3.8%)	4(6%)	6(5%)
30%未満	0	1(1.5%)	1(0.8%)
合計人数	53人	67人	120人

＊自己効力感80%以上の欄の［　　］の人数と%は、推薦入試等で12月までに上級学校への進学が決定した人数を引いた、これから一般受験をする生徒の人数及び%である。

14) １～２年生のECI,ECIIの授業を振り返って、英語の勉強でやっていてよかったこととその理由（12月：自由記述形式）

A組　予習＆復習、音読、文法、単語
Ba組　予習、単語、長文を訳す
Bc組　単語、特にない
C組　音読、単語、特にない
主な理由は、「毎日予習＆復習することで授業中の理解が進む」「音読で文の意味がつかめた」「文法が分かると英語が楽しくなる」「単語の意味が分かると読解しやすい」など。

15) １～２年生のECI,ECIIの授業を振り返って、英語の勉強でもっと一生懸命にやっておけばよかったこととその理由（12月：自由記述形式）

A組　文法、単語
Ba組　文法、単語
Bc組　文法、単語、読解、予習、復習
C組　文法、単語、復習、全て
主な理由は、「単語や文法は３年生になってからだと時間が足りない」「文法が分からないと先に続かない」「１，２年の時からもっと予習復習の習慣をつけておけば、今はこんなに苦労しないから」など。

16) Special Cornerについて（4月,12月：自由記述形式）

A＋Baクラス　４月：「本文だけでなく、模試などの問題にも対応できるように解説してくれるので分かりやすい」「とても分かりやすく楽しかったし、速読はとてもためになった。今年は受験で不安もあるが、今年も授業が楽しみ」　12月：「英語は積極的に文を声に出して読むことが大切だということを教えてもらいました」「若海先生に習って英語が好きになりました。授業中のいろいろなためになる話を聞くのが楽しみでした。大学でも英語の勉強を特に頑張ります!!」「２年間分かりやすい授業をありがとうございました。先生が旅行に行った時の体験談や豆知識を聞くのがすごく楽しかったです」「受験頑張ります」
Bc＋Cクラス　４月：「機会があれば留学したいので、英語頑張ります」「春休み中に１年生の文法の教科書を少しずつ解いてみました。ほとんど間違っていて不安になりました。今からでも間に合うか分かりませんが、頑張りたい!!」「英語が苦手でどうしたらいいかわかりません。中３までさかのぼらないといけないと思い、基本の単語、長文の本を買ってやり始めました」　12月：「若海先生から教えてもらったことを生かしてこの先も乗り切っていきたい」「グローバル化が進む現代では英語は避けて通れないと思います。だからこそ、英語が苦手と思う人は、自分で方法を探す必要があると思う」「私は中学時代から圧倒的に英語が苦手であり、現在の自分の英語力に不安を感じている。残り１か月しか残されていないが、最後まであがいてみたい」

６　まとめと考察

今回の研究では、高校2,3年生における英語の授業実践を通して、予習→授業→復習サイクル及びペアワークを中心とした「経験」に基づく学習習慣の確立を軸とした学習方略と自己効力感の獲得との関連について、２年間の授業受講者（A＋Ba）と１年間の授業受講者（Bc＋C）の比較をしながら検討してきた。

１）学習方略の有効性について

項目1,2及び項目3,4の結果から、A＋BaとBc＋Cで比較すると、前者の方が英語の理解度が高いと自己分析している生徒が多い。さらに１年生の時よりも２年生の時の方が授業の理解度が上昇したと考えている生徒、２年生のECの授業が役立っていると考えている生徒が多い。また、項目5の結果から、A＋BaとBc＋Cでは、前者の方が「予習復習を中心に英語の勉強をした」生徒が多い。生徒のコメントからも「先生のプリントのおかげで予習→授業→復習のサイクルを習慣づけられた」「プリントのおかげで何をすればいいかが分かった」など、プリントをきっかけにして、学習習慣を確立している様子が分かる。ペアワークについても、「友達と一緒に活動することで理解が深まった」「分からないところを教えあって、自信がついた」など肯定的な意見が多い。これらの結果から、２年生からの予習→授業→復習の学習習慣とペアワークを中心とした「経験」が基盤となり、英語の理解度の上昇をもたらしており、これらが有効な学習方略であることが明らかになった。

２）授業の理解度から見た自己効力感の獲得について

項目3,4,7,8から、A＋BaとBc＋Cで比較すると、「ECの授業がとても役立った、役立った」層の

生徒が、１年生→２年生→３年生１学期→２学期で、前者が56.6→79.2%→75.5%→98.1%、後者が34.4%→35.9%→65.6%→95.5%と推移している。また、項目11から、３年生での理解度は、最終的に「かなり上がった、上がった」生徒がA＋Baが100%、Bc＋Cが91%、また、項目12からは、A＋BaとBc＋Cともそれぞれの層で、「音読」「文法力」「読解力」「コミュニケーション力」で「とても力がついた、力がついた」と答えている生徒の割合にそれほど差が見られない。項目13では、自己効力感「80%以上」は、A＋Baが47.2%、Bc＋Cが55.2%、「79〜65%」は、前者が39.6%、後者が25.4%である。ただし「80%以上」に含まれている進路決定済み生徒を除外した一般受験生では、A＋Baが45.1%、Bc＋Cが48.3%となりほぼ同じ割合である。さらに他の層でも、最終的には、１年間の授業受講者たちも２年間の授業受講者とほぼ同じ程度の自己効力感を獲得していることが分かった。項目16の12月のBc＋Cグループのコメント「英語が苦手と思う人は自分で方法を探す必要がある」「不安はあるが最後まであがいてみたい」からも自己効力感の向上を知ることができる。第１筆者の授業を２年間受講した生徒の方が１年間受講生徒に比べて２年生の段階から予習→授業→復習の学習習慣が確立しており、３年当初から授業理解度も高い。一方、１年間受講生徒の３年生での目覚ましい成長も特徴的である。この１年間の授業受講者たちの授業理解度と自己効力感向上の要因として、「苦手意識の解消」があるのではないだろうか（表１０参照）。同時に、１学期の授業や特に心配をしていたC組の生徒への介入（７月の意識調査）がこの苦手意識の解消を導いたと考える。C組への調査では、項目9,10の他に、３年１学期の授業で特に力を入れて取り組んだことを中間考査、期末考査に分けて書かせたが、その際、半数近くの生徒が、予習→授業→復習、プリント、ペアワークの活用を書いていた。さらに、夏休み以降の英語の勉強の取り組み方、今後の勉強方法で不安なこと、困っていること等自由に書かせ、それについての教員のコメントを夏休み前にフィードバックし、生徒たちの意欲の向上を促した。

瀬尾（2008）は、「動機が低く英語が好きでない学習者にとってはそのケアが重要」と述べているが、この１学期末のC組の生徒たちへのケアはまさに効果的であったと言えるだろう。C組の生徒たちが素直に予習→授業→復習の学習習慣やペアワークを受け入れ実践した結果、苦手意識が低下したことと、本格的に受験勉強を始める夏休み前に教員側から適切なケアをしたことがよい相乗効果をもたらしたと考える。また、すでに推薦等で進路が決定している生徒はすべて自己効力感「80%以上」の層に属しており、高校生活で頑張った結果、推薦等で進路が決定したことをプラスにとらえ、上級学校でも頑張れると考えていることが読み取れる。

瀬尾（2008）は、「教師はサポート的態度と共に学習感やつまずきを明確化する方略についても配慮していく必要がある」「生徒の学習を援助する際に、教師側も自らの教え方が生徒の学習にとって適切であるかどうか振り返る必要がある」とも述べている。２年間における生徒たちへの日々の指導、研究を通して、教師自身の核となる指導方針は保持しつつ、生徒をしっかり把握し、臨機応変な指導や柔軟性、それぞれの時期での生徒への働きかけを工夫することの重要性について改めて考えさせられた。この教師の態度は、生徒への波及効果をもたらし、生徒自身が「認知的方略（個々の問題解決を促進するスキル）とメタ認知的方略（現在の学習状況を考慮し、その後の学習の進行を調整するもの）を自ら組み合わせ、それらの機能をさらに発揮（植木,2004)」できる学習者となるのではないだろうか。３年生ほぼ全員が受験したセンター試験では、英語の点数に関して、第１筆者が授業を受け持ったA＋Baが15.3点、Bc＋Cが4.6点、学年平均より高い結果となった。前者と後者では10点以上の差が出てしまったが、両者とも学年平均を超えた点については生徒たちの努力を評価したい。そして、上級学校進学後もさらに世界を広げて活躍していってほしいと願っている。今後は、今回の研究のCクラスの生徒たちから学んだように、英語が苦手な生徒たちへの自己効力感が増す働きかけのさらなる開発も視野に入れて、研究を発展させたい。

【引用・参考文献】

Albert Bandura　1995　SELF-EFFICACY IN CHANGING SOCIETIES Cambridge University Press （［邦訳］本明寛・野口京子　2000　激動社会の中の自己効力　金子書房 ）

植木理恵　2004　自己モニタリング方略の定着にはどのような指導が必要かー学習観と方略知識に着目してー　教育心理学研究 ,52,277-286

Schunk,D.H.　1982　Effects of effort attributional feedback on children’s perceived self-efficacy and achievement. Journal of Educational Psychology, 74,548-556

篠ヶ谷圭太　2014　高校英語における予習および授業中の方略使用とその関連－教師の授業方略による直接効果と調整効果に着目してー教育心理学研究 ,62,197-208

瀬尾美紀子　2008　学習上の援助要請における教師の役割－指導スタイルとサポート的態度に着目した検討－　教育心理学研究 ,56,243-255

中西良文　2004　成功 / 失敗の方略帰属が自己効力感に与える影響　教育心理学研究 ,52,127-138

野口京子　1999　健康心理学　金子書房

若海由美・尾﨑啓子　2013　高校生の学校ストレスに関する自己効力感、コーピング様式が現実の行動・理想の行動に及ぼす影響―学年差の検討　埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター紀要 ,12,83-90

若海由美・尾﨑啓子　2014　高校生２年生における自己効力感の形成について―英語学習の視点から　埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター紀要 ,13,121-128

若海由美・尾﨑啓子　2015　高校生３年間における学習方略と自己効力感の獲得との関連―英語学習の視点から　埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター紀要 ,14,1-8

若海由美・尾﨑啓子　2016　高校２年生における学習方略と自己効力感の獲得との関連―1年間の英語学習を通じて　埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター紀要 ,15,9-16